千葉歴史の散歩道

発見！下総国府のメインストリート（国府台遺跡第192地点）

文化財課発掘調査班文化財主事　垣中（かきなか）　健志（けんじ）

千葉県は奈良時代に安房（あわ）・上総（かずさ）・下総（しもうさ）の３国に分かれていた。それぞれの国には国府（こくふ）が置かれ、国内統治の中心として機能していた。安房国は現在の南房総市、上総国は現在の市原市、そして下総国は現在の市川市にそれぞれ国府が置かれていたと考えられている。

今回紹介する国府台（こうのだい）遺跡は、市川市にある国府台県営住宅建替事業に伴って、県教育委員会が平成28年度と平成29年度に発掘調査を実施した。この周辺では、これまでも多くの発掘調査が行われてきたが、未だに国府の中枢施設である国庁が発見されず、謎に包まれている部分が多い。調査の成果として、弥生時代後期の竪穴住居跡４軒、奈良・平安時代の両側に側溝が設けられた道路跡、平安時代以降に機能した大溝１条を検出した。出土した遺物は、弥生時代の土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器を中心に、旧石器時代から江戸時代まで幅広い時代の遺物が見つかっている。

今回の調査成果の中で、特に注目されるのが、奈良・平安時代の道路跡で、南北方向にほぼ直線で45ｍ延びる。路面幅は約９ｍ。東西両側に雨水などの排水機能を持つ側溝が設けられ、側溝間の距離は約11ｍを測る。路面には人や馬などが通ることで地面が硬く締まった硬化面や、道路を補修したと考えられる痕跡を確認した。この道路は、規模や東西の側溝から出土した遺物と併せて考えると、奈良時代の下総国府の整備に伴って造成されたと考えられる。

これまで文献資料等の研究から、下総国府の国庁は、現在の国府台野球場のあたりと推定され、国庁南面へと続く直線道路の存在も想定されている。今回見つかった南北方向へ延びる道路は、この推定国庁のほぼ真南に位置することから、従来の想定を裏付けるものと言える。また、これまでの国府台遺跡の調査成果として、東西方向に延びる道路跡や南北方向に延びる区画溝も見つかっていることから、この道路を含めた下総国府全体で計画的な道路整備が行われていたと考えられる。国庁へ向かう道路の様相が明らかになった事例は全国的にも少なく、この道路は国庁へ向かうメインストリートとも言うべき道路であり、国府造営の一端を明らかにする貴重な調査成果をあげることができたのではないか。

両側に側溝を備えた道路跡全景（南から撮影）
道路中央の四角い遺構は弥生時代の竪穴住居跡。

千葉教育　梅（No.６５３）　平成３０年１２月３日発行
編集・発行　千葉県総合教育センター　（代表）　秋元　大輔
〒261-0014 千葉市美浜区若葉２－１３　ＴＥＬ０４３－２７６－１２０４
ＵＲＬ　https://www.ice.or.jp/nc
印　刷　所　株式会社白樺写真工芸
〒263-0002 千葉市稲毛区山王町１０２－５　ＴＥＬ０４３－４２３－１１０１